

## 岡山における明治初期の病理解剖

中山 沃

明治十年（一八七七）七月十二日、岡山県公立病院の医師が主体として行われた婦人の病理解剖が、岡山県下で最初と考えられる。患者は岡山県浅口郡本庄村農業杉本幾久の長女佐牟二七歳で、近隣の医師、公立病院長若栗章の往診、石坂堅壮らの来診の効もなく、同年七月十一日死去した。生前「願クハ死後其部ヲ解剖シ以テ世ノ此ノ病ヲ患フル者ノ治療ニ於テ裨益スル所アラバ幸甚ナリ」と遺言していたので、主任医師らは官に請うて死後解剖の許可をえており、公立病院員が行うことになっていた。そこで死去した翌七月十二日、解剖が行われた。場所は不明であるが自宅に近い所と思われる。この病状記録は「備中国浅口郡本庄村農杉本佐牟病状筆記」と題し、本郡講習所会頭坂田雅

夫、主任医田中秀珉、同柚木弘道の三人の連名で、そして解剖記録は、「卵巣水腫屍体解剖畧記」と題し、岡山県公立病院の名前で、「医学雑誌（東京医学会社出版）」明治十年八月刊の二六号に発表された。記事によれば参会者はほぼ九十名で、該区解剖社中の前記三名のほか、江原方策・脇田健徳・柚木洋碩・堀綱吉・小野亮・渡辺玄敬・三村立庵・窪田次郎ら二二名、病院よりの出張は、病院長若栗章・副院長生田安宅・教員平松鑷吉・大石喜全・丸川仙二郎・司器前田謙、他郡よりの参会者は、石坂堅壮・高橋駟・山本習軒・千原貫一ら六十名ばかりと、各郡の医務取締妹尾一三郎ら四名であった。院長が指揮をとり、大石・丸川が執刀し、平松が書記をつとめ、石坂が卵巣水腫を生じた。この解剖記事の冒頭に、「此葦ヤ實ニ本県下病院解剖ノ嚆矢ニシテ亦タ以テ人智開明ノ進歩ヲ觀ルニ足ルト爾云」と記している。人体の構造を知るための解剖が備前藩では幕末、明治初期に行われた可能性を示す資料はあるが、病理解剖はこれが第一例と考えられる。

第二例は倉敷および近傍の医師達が石坂堅壮を盟主として、都宇郡帯江新田（現倉敷市茶屋町）農吉田皆蔵四二歳

を剖驗し、日本で初めて肝吸虫を発見したのである。剖驗したのは明治十年八月十一日で、「肝臓病解剖紀事並ニ病歴略記」と題し、石坂堅壮の名で投稿したが、何故か次の第三例より遅れて、同十一年十月二十日刊の「医学雜誌」四十号に掲載された。

第三例は石坂堅壮らによつて窪屋郡倉敷村(倉敷市)の農白神亀松六三歳の病理解剖が行われた。この患者は心臓および肺疾患であり、「医学雜誌」二十九号(明治十年十一月刊)に掲載された。この論文の心臓の図は石坂が描いている。参会者は一二〇名余であつた。

第四例は、岡山県公立病院の丸川・高橋の両医員が、私立講習所愈止社中(社長は窪田次郎)の需に應じて、小田郡笠岡村寄留の前川森蔵(三三歳)の病理解剖が行われた。この患者は大動脈疾患及び心臓破裂であつた。この例の病状及び剖驗記録は窪田次郎文書の中にある。

また窪田次郎らの愈止社中は、明治十二年五月一日鴨方町六條院中の田中掠次(肺結核)の剖驗を行った。この剖驗記録の一部が「生田安宅文書」の中にある。

県病院に付設されていた医学教場は、明治十三年(一八

八〇)九月、岡山県医学校と改称された。前年の明治十二年病院長兼医学教場教頭として来任した清野勇医学士は病院長としてとまり医学校長として菅之芳医学士が着任した。翌十四年一月に山形伸芸医学士、十五年一月に中浜東一郎医学士が教諭兼一等医として着任し、ここで計四人の東大卒の医学士が揃つた。

明治十五年一月、岡山における最初の医学雜誌「医事月報」第一号が岡山県病院から発刊された。この一号には本郷楨衛記「一種肺虫病ノ治驗並解剖記事」が載せられている。この患者は津高郡横井上村、農国吉栄次郎三七歳で、明治十四年九月二三日死亡し、菅・本郷の両名によつて剖驗された肺吸虫病であつた。

「医事月報」第二号(同十五年二月刊)には本郷楨衛述で「僧帽弁及大動脈弁ノ不全閉鎖ニ起因シタル心臓肥大症ノ治驗並ニ解剖記事」が載っている。患者は県病院に入院した十七歳の男性である。

明治十六年一月四日、四医学士によつて農婦を倉敷で剖驗し、胆管中に多数の肝虫を発見し、さきの石坂堅壮の剖驗結果を再確認することとなつた。この結果は同月、四医

学士の連名で「肺臓及肝臓ジストーマ虫ノ実験」と題して、単行本として刊行された。

明治二十一年（一八八八）岡山医学校が廃され、第三高等中学校医学部となり、同二十三年七月、東大三浦守治病理学教授の門下生桂田富士郎（石川県医学校卒）が病理学担当の専任講師として来任し、同二六年教授に昇任した。同二十三年九月から翌二十四年九月まで、桂田によって九例の剖驗が行われ、その記録は東京医学会雑誌に掲載された。なお平成二年十一月十七日岡山大学病理学教室開講百周年記念式が開催され、演者が「岡山の病理解剖事始め」と題して記念講演を行った。

（岡山大学医学部）

## 「京都看病婦學校設立趣旨」について

渋谷 鉆、谷津 三雄

明治十九年に発足した京都看病婦學校は、わが国第二番目の看護教育機関で、同志社をつくった新島襄により創設された。そこでその設立趣旨や設立時の学校校則について「明治十九年十月京都看病婦學校設立趣旨」を資料として述べる。「彼ノ有名ナルクリ、ミヤノ役ニ英國ノ士卒多ク傷ヲ蒙リ又多ク病ニ罹リシカバ戰地ナル軍人病院ニ於テ看病人ノ欠乏ヲ告グルコト頗ル急ナリ」にはじまり、その看病にあつた功績に対し英国政府から巨額の金をうけたナイチンゲールがその金で看病婦學校を設立した。このナイチンゲールが創立した學校を模範として、「米國ノ都府到ル所トシテ看病婦學校ノ設アラザルハ稀ナリ」「當今英米二國ニ於テ此校ニ入學ヲ志願スルモノ甚タ多ク、學校ハ毎ニ其